

人手不足

全鍍連 理事 川上 隆史
(合資会社東亜鍍金工場／東京都鍍金工業組合)

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

東京都鍍金工業組合で常任理事の川上です。

鍍金は自動車、電子機器、機械部品、建築材料、医療機器など多岐にわたる製品の対腐食性、美観、機能性を向上させる表面処理技術であり日本の産業を支える基盤となっております。

その一方、沢山の問題を抱えています。原材料の高騰、エネルギーコストの上昇、脱炭素化への対応、後継者不足、環境規制への対応と挙げればきりがありません。その中でも特に、鍍金業界、その取引先、協力企業での人手不足が深刻になっております。

人を採用しようとしてから1年間以上採用できない、設備が故障したけど直ちに対応できる人がいない、そのような話をよく耳にします。昔は「この見積もり決まってくれ」が「この見積もりが決まったらどうしよう」と思う時もあります。

東京都鍍金工業組合では昭和50年1211社あったのが、現在（1月末時点）245社と50年間で約8割減になっております。

現状鍍金工業組合も、業務量の増加とその業務に携わる人の減少に直面しており鍍金業界一丸となって業務の効率化、スリム化、仕事の分担を進めなければならないと考えております。

自分は東京都鍍金工業組合で技能教育委員会の仕事をさせていただいております。初めて技能教育委員会に参加したとき、20代後半で同い年ぐらいの方が数名いましたが現状の委員は20代30代はおらず50代前後が大多数を占めております。

毎年7月に行われる技能検定試験は技能教育委員が中心となり運営を行います。近年猛暑の続く時期、責任感、協調性がある委員の方々と一緒に仕事をし、今は大変有意義な時間を過ごしておりますが5年10年20年先を考え活動しなければいけないと思っております。

人手不足により自社の仕事だけでも手一杯です、一人でも多くの方々に組合活動に協力をしていただき、仕事を分担し、組合活動を通して有意義な時間を過ごしてもらう事が鍍金工業組合の存続発展に繋がると考えております。